

2017年1月18日 退職者連合2017新春の集い会長あいさつ

皆様 明けましておめでとうございます。旧年中賜りましたご支援に対し心よりお礼を申し上げますとともに、本日は多くの皆様にお越し戴きまして深く感謝申し上げます。

ご来賓の皆様には大変ご多忙なかご臨席賜りまして心よりお礼申し上げます。後ほど司会者よりご紹介しご挨拶を戴きますが、本年もご指導のほど宜しくお願いします。

さて、間もなく国会が召集されるようですが、昨年年末の国会ではTPP承認案件やカジノ賭博合法化法案、年金制度の改正案など、国民の暮らしにかかる重要な法案が強行成立しています。

中でもカジノ賭博合法化法は、まともな議論もせずに採決を強行しましたが、今後1年以内にギャンブル依存症対策など別の法整備を行うとしています。政府や自治体がギャンブル依存症対策まで講じて、何故カジノ賭博を解禁するのか全く理解できません。反社会的な集団を助長するような施設は導入すべきでないと思います。

また、年金法の改正では年金増額の抑制策を強化する法律が成立しましたが、名目下限は維持するとしています。しかし、派遣労働者や非正規労働者の雇用と処遇の改善がなければ、名目下限を維持することさえも困難になります。雇用と処遇の改善に向けて連合とともに努力してまいります。

政府は、5兆円を突破した防衛予算を更に増額しようとしています。その一方で社会保障費は毎年5000億円を削減するとしています。そのために、この国会では医療と介護の制度改正を行うとしています。その中心は高齢者に対する負担増と給付削減を強いるものであって、到底承服できるものではありません。

去る5日、老年医学会など7つの学会で構成される「日本老年学会」が、「65歳以上を高齢者」とする高齢者の定義を、「75歳以上」に見直すべきだとする提言を発表しました。元気な高齢者が増えたことは歓迎すべきですが、政府や自治体は社会保障制度の見直しなどを考えることなく、元気な高齢者の社会貢献活動の環境整備に努めるべきだと考えます。

退職者連合は、早くからこの活動を奨励しホームページでも紹介していますが、現在では内閣府から毎年表彰されている団体・個人の取り組みが多くなっています。

本年も、政府や自治体に対して社会保障制度の充実を強く要求すると同時に、元気な高齢者が社会貢献活動に積極的に取り組むことを申し上げまして挨拶とします。